

# 議員の年賀状相次ぐ

## 取手市議、新たに2人

29日に改選が迫った取手市議会の小嶋吉浩議員(50)と、前議長の小羽直一議員(64)が、市内の住民に、公職選挙法が原則として禁じている年賀状を出していたことが13日わかった。県内では今年、こうした自治体議員による年賀状の送付という、公選法違反を疑われる行為が相次いでいる。

小嶋議員の年賀状については、市選挙管理委員会がすでに公選法違反(あいさつ状の禁止)の疑いで取手署に情報提供しており、赤羽議員の年賀状についても調査を始めた。

市選管によると、両議員とも、お年玉くじつき年賀はがきを使っている。小嶋議員の年賀状は、表の下端に今年22日告示の市議選の出陣式情報を印刷。裏には「1月議会報告」と題して市議会的一般質問の要旨を載せ、「平成24年元旦、新年のご多幸とご健康をお祈り申し上げます」と印刷している。

赤羽議員の年賀状は、裏面に龍のマークと共に「恭賀新年 本年もよろしくお願ひします」などと印刷。

### なぜ年賀状はダメ?

#### 金がかかる選挙を防ぐため

公職選挙法147条の2では、現職も含め公職の候補者や候補者になろうとしている人が選挙区内の人に、年賀状や暑中見舞い状などのあいさつ状を出してはいけないと定めている。1990年の改正公選法で設けられた規定で、県選挙管理委員会によると、金がかかる選挙や選挙期間外での売名行為を防ぐ目的があるという。

例外として認められているのは答礼のためのあいさつ状だけ。自ら率先して年賀状などを送ることはできず、受け取った場合のみ返事として出すことができる。ただ、その場合も「すべて自筆」に限られ、印刷されたあいさつ状に住所や名前だけを書き入れたものや、パソコンやワープロで作ったものを使うことはできない。

赤羽議員によると、30〜40通出したという。小嶋議員は「この3年間、同級生や知人らに100枚、200枚単位で出しているが、警察や市選管から話している。」(佐藤彰)

警告も注意もない。あくまでも議会報告なので公選法には違反していないと認識している」と話している。公選法で認められているあいさつ状は、答(返)礼のために自筆でしたためたものに限られている。赤羽議員は「毎年互いにやり取りしている人に出しているが、返礼ではないので違反と認識している。」と話している。(佐藤彰)

### 「またど」

▼ホーリーホックのスローガンを川又南岳さんが揮毫(干支(えと)にちなんで「J2水戸ホーリーホックがクラブにつけた今年のスローガン」)をついに水戸市在住の書家、川又南岳さん(74)が揮毫(きぎょう)した。その贈呈式が13日、市内であった。今後、クラブのパンフ



には「しからみを附せぬ」という意味を込めたという。今月上旬に依頼を受けた川又さんは「仮名文字の作品は難しく、何枚書いても迷いが出た。一切を断つ思いで、なにくそと筆をたたきつけるようにして書き上げた」と話し、「チームが一丸となって前進することを祈っています」とエールを送った。

## おおつ野移転の土浦協同病院 開業1年遅れ 15年夏

土浦市中部から東端の「土浦ニュータウンおおつ野ヒルズ」への移転が決まった土浦協同病院の開業が、1年遅れの2015年6〜7月になることがわかった。病院を運営するJ A 県厚生連(高橋恵一理事長)が12日、土浦市議会の全員協議会で説明した。新病院の用地は19・3畝と当初の2倍に拡大する。

厚生連の説明によると、新病院は、10階建て延べ床面積7万8千平方メートル、800床(現行917床)。周産期医療センター、がんセンター、救急救命センターの3本柱は継続する。13年3月に着工し15年4月に完成。15年6月までには同市

真鍋の現病院からの引っ越しを終えたいとしている。当初10畝の予定だった用地を2倍に広げたのは、複合総合医療センターをめざし、病院を核に将来、関連医療施設を集積させる狙いがあるとみられている。厚生連は席上、現在のがんセンターは老健施設とし

て残す考えを示唆。しかし、現在地に外来機能を残す可能性については「医師会との協議もあり今後の検討課題」と明言を避けた。厚生連の資料では、新病院は「国際医療貢献ができるマグネットホスピタル(人の集まる病院)」がコンセプトの一つ。中国などアジアから訪れる観光客に高度な医療を提供するメデイカルツーリズムへの参入を意識したものとみられる。(長田寿夫)

### インフル 流行始まる

県健康危機管理対策室は13日、県内で「インフルエンザ」の流行が始まったと考えられると発表した。今年第1週(2〜8日)、県が定点として報告を求めている120医療機関でインフルエンザと診断された人は123人。流行指数は1・03で、流行の開始とみなす指標の1・0を超えた。過去5年間では2番目に遅い流行の開始。対策室は、手洗いやうがい、励行などをあらためて呼びかけている。